

専門的アーカイブと総合的レファレンスの拡充(シ06)

- 目的** 当研究所が行う文化財の調査・研究の成果を集約するとともに、専門性の高い資料や情報を蓄積・整理する。あわせてデータベースの継続的拡充を行い、資料閲覧室を窓口にして文化財に関する総合的レファレンスを充実させる。
- 成果**
1. 全所的文化財情報を発信するため4半期ごとにアーカイブズWG協議会を開催した(2016(平成28)年4月21日、9月29日、12月20日、29年3月2日)。
 2. 資料閲覧室のレファレンス機能の拡充の一環として、音声視聴覚ブースを設置し、公開に向けて当研究所無形文化遺産部が所蔵する音声映像資料の資料閲覧室での視聴に対応するよう環境を整え、『音盤目録』をWeb上での公開と活用を見据えてデジタル化を行った。
 3. 刊行物アーカイブズシステムの運用評価を行い、成果公開のコンテンツとして、海外発信を念頭に置いて英文のともなう『在外日本古美術品保存修復事業 報告書』の公開のため担当部署との協議を行い(2016(平成28)年6月27日)、直近5年間の報告書のWeb上での公開を行うべく、掲載作品を収蔵する海外の美術館・博物館に対して公開に関する許諾申請を行った。
 4. 明治・大正期刊行の雑誌類や機器類の劣化に対して、サービスの低下を招かないように資料(とくに貴重書もしくはこれに準じる資料)についてはデジタル化を進めた。
 5. 所蔵『売立目録』について、収載内容が画像とともに検索できるシステムの運用評価と改良を行い、併行して収載内容のデータ入力を進めた。
 6. 所蔵の近現代の美術作品カード(絵葉書資料)のデジタル化を進めた。

閲覧室事業の運営

1. 年度内資料受け入れ数
和漢書9,879件 洋書53件、展覧会図録・報告書等1,302件、雑誌29,985件(合計41,219件)
2. 年度内閲覧室利用状況
公開日総数137日・年間利用者合計923人

- 研究組織** ○津田徹英、佐野千絵、皿井舞、安永拓世、橘川英規、二神葉子、小林公治、塩谷純、小林達朗、城野誠治、福永八朗(以上、文化財情報資料部)、久保田裕道(無形文化遺産部、文化財情報資料部兼務)、吉田直人(保存科学研究センター、文化財情報資料部兼務)、津村宏臣(客員研究員)